

2018年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、中・高緯度帯では波列パターンが卓越し、アラスカ付近、英国付近、ヨーロッパ東部、中央シベリア付近、日本の東海上で正偏差、アリューシャンの南、カナダ東部～グリーンランド、ロシア西部で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は、ユーラシア大陸南部で平年の位置と比べて南寄り流れ、日本の東海上で北に蛇行した。北米東部～ヨーロッパ北部の偏西風は平年と比べて強く、ユーラシア大陸北部では寒帯前線ジェット気流の蛇行が明瞭だった。海面気圧をみると、アリューシャン列島付近、グリーンランドの東海上で低気圧が発達した。ユーラシア大陸南部～日本の南東海上で正偏差となった。850 hPa 気温をみると、ヨーロッパ、中央シベリア～アラスカ付近で高温偏差、カナダ中・東部、東アジア南部で低温偏差となった。熱帯の対流活動は、平年と比べて、西アフリカ～アラビア半島付近、北太平洋熱帯域の東部で活発、南インド洋熱帯域の東部、フィリピン付近で不活発となった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半はアフリカ付近からインド洋にかけて東進したが、その後は不明瞭となった。対流圏上層では、北アフリカ～ユーラシア大陸南部で低気圧性循環偏差が見られた。対流圏下層では、インド～フィリピン付近で高気圧性循環偏差、北太平洋熱帯域の中部及び東部で低気圧性循環偏差が見られた。アジアモンスーンに伴う西

風は、平年と比べて弱かった。海面気圧は、インド洋東部～太平洋西部で正偏差、大西洋付近で負偏差となった。南方振動指数は+0.4だった。

世界の天候

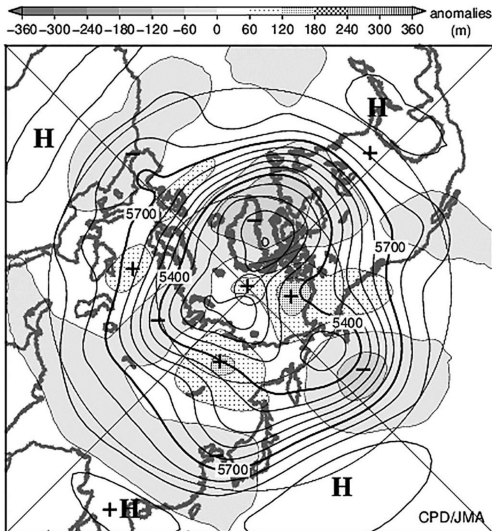
2018年10月の世界の月平均気温偏差は+0.37°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、2番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.66°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

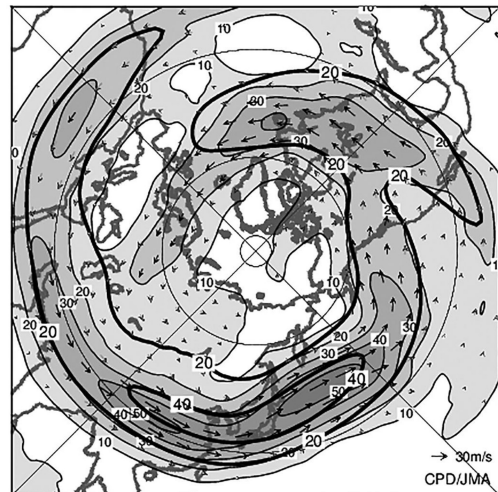
- 東日本～ミクロネシア中部、トルコ北東部～ヨーロッパ中部、アラスカ南東部～東シベリア北東部、オーストラリア東部で異常高温となった。
 - 中国南部及びその周辺、カナダ南東部で異常低温となった。
 - 北日本～韓国南部、ヨーロッパ南部～北アフリカ北西部、米国中西部～メキシコ中部、ブラジル西部～アルゼンチン北部で異常多雨となった。
- （気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

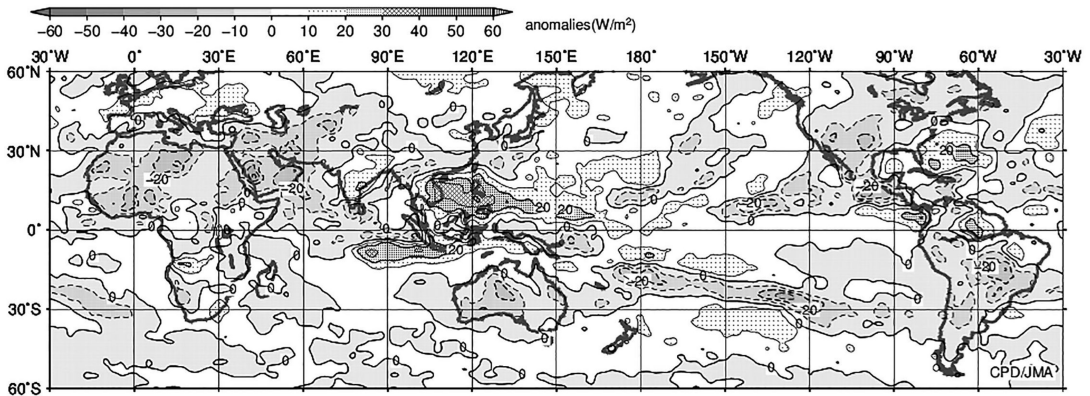
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2018年10月の北半球月平均 500 hPa 高度及び
 年偏差
 等値線間隔は60 m。陰影は年偏差。年偏差は
 1981～2010年の平均値。

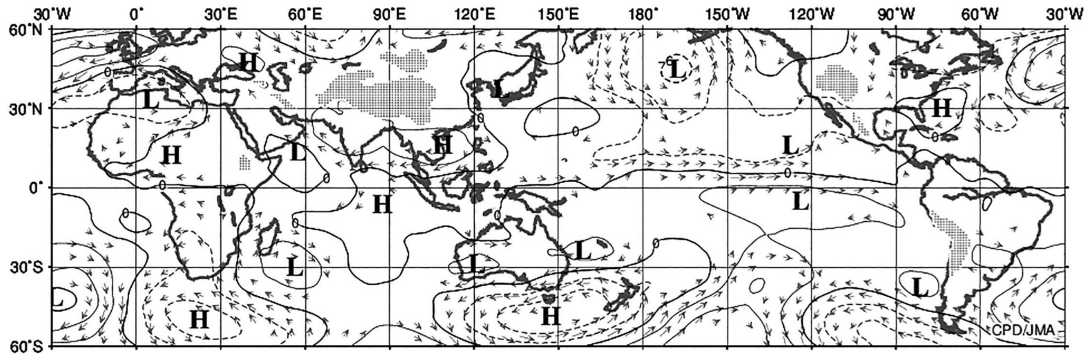


2018年10月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風
 ベクトル
 等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等
 値線間隔は20 m/s。年偏差は1981～2010年の平
 均値。



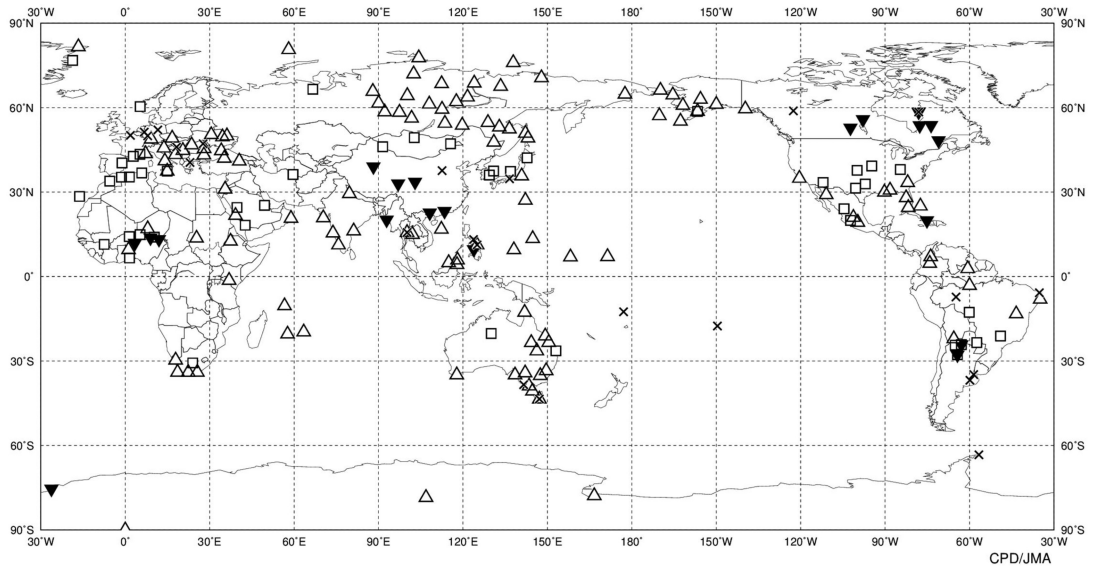
2018年10月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2018年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2018年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。